

## 産科・婦人科

巽 啓司

産科的合併症は経過が急で母体・胎児に重篤な異常をきたすことも多い。またそれ以外の合併症も、非妊娠とは異なる病像を呈したり妊娠経過に重大な影響を与えたりすることがよくある。近年、出生率の低下とともに妊娠出産年齢の高齢化等により、いわゆるハイリスク妊娠の割合は増加の一途をたどっている。当院産科でもこの傾向は顕著であるが、異常なく経過した妊産婦だけでなく様々な合併症をもった妊娠にも、できるだけ自然なお産を体験してもらえよう努力している。子宮内の胎児の状態はブラックボックスを扱うようなものであるが、胎児心拍モニタリング、超音波断層法、パルスドップラー法等により子宮内の胎児の状態を間接的にはあるが推測することが可能になってきた。新しい知識・技術を駆使して個々の症例に応じた適切な個別のリスク管理を行うことを通じて、より適正な診療体系を作っていくことが当科の基本目標である。また小児脳神経外科グループと協力して、水頭症など先天性中枢神経奇形をもつ胎児の出生前診断と治療を数多く手がけて日本周産期新生児学会で報告しているほか、AIDS診療拠点病院として、HIV/AIDS合併妊娠の管理にも積極的に取り組んでいる。

### 【2013 年度研究発表業績】

A-3

巽啓司:「産婦人科当直マニュアルー慌てないための虎の巻 II 婦人科編 2婦人科術後合併症 腎泌尿器合併症」: 臨床婦人科産科 67 (4): 82-84、医学書院、2013年4月

松原尚子、山田成利、伊東裕子、伴建二、紺谷佳代、岡垣篤彦、山崎麻美、巽啓司:「当院における胎児期水頭症の診断と予後の検討」: 日本周産期・新生児医学会雑誌 第49巻、第3号: 980-984、2013年9月

紺谷佳代、田中浩彦、鳥谷部邦明、岩見州一郎、谷口晴記:「早期診断に細胞診が有用であった微小浸潤子宮頸部明細胞腺癌の1例」: 日本臨床細胞学会雑誌 第52巻、第6号: 557-561、2013年11月

B-1

Atsuhiko Okagaki: FileMaker Developer Conference A Case report of Osaka National Hospital Why is FileMaker used widely in Japanese Hospital. FileMaker Developer Conference, USA, 2013年8月

### B-3

岡垣篤彦、定光大海：災害用電子カルテの実装と試験運用。第17回医療情報学会春季大会、富山、2013年6月

岩見州一郎、松原尚子、橋本佳奈、種田健司、伊東裕子、伴建二、頼裕佳子、紺谷佳代、巽啓司、岡垣篤彦：当科における重複癌の臨床的検討。第54回日本婦人科腫瘍学会、東京、2013年7月

伴建二：当科における子宮体癌手術（後腹膜リンパ節郭清）の検討。第67回国立病院総合医学会、金沢、2013年11月

岡垣篤彦：シンポジウム、ユーザーメイドシステムとベンダー製システムとの調和・融合、ユーザーの要望を病院情報システムに取込む「カード型カルテ」の実装。第33回医療情報学連合大会、神戸、2013年11月

### B-5

田中稔恵、伴建二、松原尚子、種田健司、伊東裕子、紺谷佳代、岩見州一郎、山田成利、岡垣篤彦、巽啓司：乳腺転移を認めた卵巣癌の1例。第128回近畿産科婦人科学会、大津、2013年6月

種田健司、田中稔恵、橋本佳奈、伴建二、頼裕佳子、紺谷佳代、岡垣篤彦、巽啓司：妊娠中期以降に急速に増悪した膠芽腫合併妊娠の1例。第129回近畿産科婦人科学会学術集会、大阪、2013年11月

種田健司、田中稔恵、寺田亜希子、橋本佳奈、伴建二、伊東裕子、頼裕佳子、岡垣篤彦、巽啓司：当院における子宮癌肉腫症例の検討。第28回大阪温知会、大阪、2014年2月

### B-8

岡垣篤彦：FileMakerによるがん患者登録システムの構築と病院情報システムとの接続。第18回北海道広域医療連携研究会、帯広、2013年10月